

アマチュア無線の体験運用ってどんなもの

《体験運用実施者向け》

アマチュア無線家なら、いつでも・どこでも・だれでも 無資格者にアマチュア無線の体験運用を楽しんでもらえるようになりました。



体験運用をするには、**体験者向け「3つのルール」**と**アマチュア無線家向け「7つのルール」**があります。ルールを守って楽しみましょう。

◆アマチュア無線体験運用の期待とルール

アマチュア無線の交信体験（体験運用）により、アマチュア無線や電波の楽しさ・大切さ・使う責任を知る・学ぶことができ科学技術や無線通信技術に対する理解と関心を深めることができます。この交信体験を「きっかけ」に、グローバルに活躍する将来の技術者・研究者が育っていくことが期待されています。（総務省 HP 抜粋）

体験者向け「3つのルール」

1. アマチュア無線家の方が立ち会って、体験者が教えてもらいながらアマチュア無線の操作をします。
(モールス符号による通信はできません。)
2. 交信の始まりと終わりの操作は、アマチュア無線家の方がします。
3. その他にもルールがあります。アマチュア無線家の方の指示を守って交信体験を楽しんでください。

アマチュア無線家向け「7つのルール」

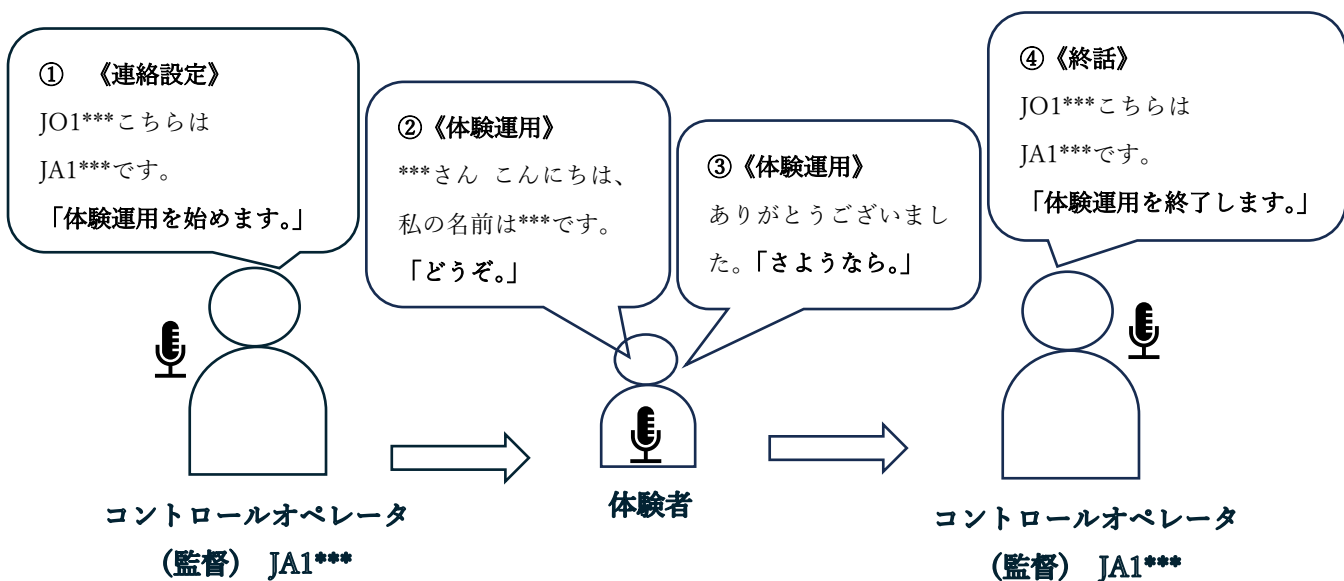
1. ご自身が開設または構成員となっているアマチュア無線局を使用すること。
2. アマチュア無線家の方の監督（指揮・立会い）の下で、体験者（無資格者）が無線設備の操作を行うものであること。
3. 科学技術に対する理解と関心を深めることを目的として、一時的に行われるものであること。
4. 監督するアマチュア無線家の方が行うことができる無線設備の操作の範囲内であること。モース符号による通信操作の交信体験はできません。
5. 連絡の設定及び終了に関する通信操作は、監督するアマチュア無線家の方が行うこと。
6. 体験者は、電波法または放送法の法令違反者でないこと。
7. 監督するアマチュア無線家の方は、体験者が無線技術に対する理解と関心を深めるとともに、無線設備の操作に関する知識及び技能を習得できるよう、適切な働きかけに努めること。

◆体験運用のやり方と運用イメージ

有資格者のコントロールオペレータ（監督）が相手局を呼出して「連絡設定」を行った後に、体験者の運用が可能になります。体験者が運用を終えたら、コントロールオペレータは、その相手局と「終話」をします。「連絡設定」と「終話」は、どちらも、電波の出所（運用場所）と責任の所在（コールサイン等）を明らかにするために、有資格者のコントロールオペレータ（監督）が行います。「連絡設定」が済んだ後は、体験者にマイクを渡し交信を楽しんでもらいます。「連絡設定」が済んでいるので体験者はコールサインを言わなくても構いません。最初はハンディ機で十分、「体験者」は聴きやすい音声のFMやDVモードを好まれます。PTTの扱いも慣れていません。「応答者」は、隠れながら体験者の様子が見える場所で状況を察しながらの交信をお勧めします。名前（ニックネーム）で呼びかけ、シナリオがいない簡単な話題で「体験者」の緊張をほぐしてあげましょう。またバンドやモードは体験者に合わせて選択します。

※注意、体験者は不特定呼出CQや特定局の呼び出しは出来ません。

※注意、つづいて体験者がいる場合は、再び「連絡設定」から始めます。



◆体験運用に必要な人

体験運用は、主役の「体験者」、「応答者」、「コントロールオペレータ（監督）」の3人が必要です。「コントロールオペレータ（監督）」は適した「応答者」を探し体験運用の相手を依頼します。「応答者」は体験者が聞き取る速度で褒めて会話を広げます。「体験者」は子供会や青少年活動、防災訓練、体験運用の日などで募ると良い

でしょう。

体験者は小中学生が多くご家族兄弟と一緒に来場されます。保護者へ説明と感謝を忘れずに、ご家族一緒に体験運用を楽しんでいただきましょう。

◆体験運用に必要な物

まずは活動を告知するポスターや情報ツールで開催情報の発信。何をしているのか理解しやすい会場の装飾、そして体験運用に使用する無線機材一式は出来るだけ綺麗で新しい物を用意します。和文通話表、フォネティックコード表があると便利ですが、学んでいない言葉や英語が難しい「体験者」に配慮が必要です。参加証や QSL カードは喜ばれます。地図があると交信も弾みます。アンケートに答えていただくと関係者の励みになり改善点が見つかります。暑さや急な雨に備えも必要です。参加費無料の会場がほとんどです。

◆安全対策を施します。

安全は全てに優先します。ケーブルや配線処理、アンテナ周りに柵を設けるなど安全対策を施します。体験者の目線に下げて動線を見渡すと思わぬ危険に気が付くことがあります。整理された会場、清潔な機材や身なり、笑顔いっぱいの会場は自然に人が集まり盛況になります。物やマイクの消毒も大切です。

◆「体験運用の日」に活動しましょう。

10月第3週土日は CQ 出版社主催「体験運用の日」が開催され全国のアマチュア無線家有志の方々が体験運用をします。CQ 出版社 Web サイトに応募すると CQhamradio 誌と同社 HP に「体験運用の日」体験運用実施局として掲載されます。また、この日はボーイスカウト世界機構が主催する JOTA (スカウトのアマチュア無線の祭典) でもあり、たくさんの子供達が体験運用に参加するので体験者同士の交信がしやすくなります。

◆これまで体験運用を実施して感じたこと

体験運用は皆が楽しい。仲間が増える喜びがある。普段している事が社会貢献になっている。簡単な装備 (ハンディ機) でも体験運用ができる喜び。また、適した場所が見当たらない。体験者を募るのに苦労した。子供の扱いが難しい。体験者が期待する応答者が見つからない。体験者の滞在時間は短い。非常識な交信相手に遭遇したなど様々な課題があります。イメージ練習をして対策を施しましょう。

◆参考資料と体験運用のお問合せ先

JARL 各種資料を利用すると理解も深まり説明不足を補うことが出来ます。配布すると再来場が期待できます。体験運用の手法は手探り状態で未完成です。皆で情報を持ち寄り改善していきましょう。

体験運用推進・ニューカマー支援委員会委員長 田中 透 E-mail : jr3qhq@jarl.com



総務省電波利用 HP アマチュア無線の交信体験制度 (体験運用)

https://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/others/ama_experience/index.htm



JARL HP 体験局運用マニュアル

https://www.jarl.org/Japanese/6_Hajimeyo/taikenunyou.html



JARL HP アマチュア無線ってどんなもの?

https://www.jarl.org/Japanese/6_Hajimeyo/taikenunyou.html

《一例 アマチュア無線の初体験運用者向け V/UHF FM 体験交信の流れとポイント》

| 担当 | 内容 | 交信表現の一例 | ワンポイントアドバイス |
|-----------------|---------------|---|--|
| コントロール オペレータ | 通常交信 一斉呼出し | CQ CQ CQ こちらは JA1〇〇〇 ××市。体験運用 をしています。どうぞ。 | コントロールオペレータはゆっくり体験者が聞き取れる速 度で体験運用であることを明瞭に伝える。 |
| 応答者 | 通常交信 | JA1〇〇〇こちらは JH1×××です。どうぞ | 会場や無線で聞いている方が大勢いる事を忘れずに。 |
| コントロール オペレータ | 通常交信 | JH1×××こちらは JA1〇〇〇です。 59 で××市に入感しています。 オペレーターは白木です。どうぞ。 | 基本交信は簡潔に済ませます。 コントロールオペレータはフォネティックコードと和文通話 表を用いる。 |
| 応答者 | 通常交信 | 白木さんこんにちは。 59 で〇〇市に入感しています。 オペレーターは内山です。どうぞ。 | コントロールオペレータは体験者の様子を見て難しい時 は体験運用の“依頼をしない” 通常交信で終える。 |
| コントロール オペレータ | 体験運用 の依頼 | 内山さん 野球が好きな小学校5年生の男の子と体験運用をお 願いできますか？どうぞ。 | 応答者に体験者の年齢や性別等を知らせて会話の準 備を促す。 |
| 応答者 | 体験運用 の承諾 | 白木さん 体験運用承知しました。どうぞ | |
| コントロール オペレータ | 連絡設定 | JH1××× 〇〇市 内山さん。こちらは JA1〇〇〇 ××市 白木です。 体験者は自前の通話表現で名前をお伝えしますので ご承知ください。こちらからお呼びします。 体験運用を始めます。 | 「連絡設定」とは相手局を呼出して通話するまでの設 定。電波の出所と責任の所在を明らかにする。 明瞭に「体験運用を始めます。」 |
| 体験者 | 体験運用 | 内山さん こんにちは。僕の名前は、マツオカ です。 マグロの マ、ツブアンの ツ、オレンジの オ、カレー の力。マツオカ です。どうぞ。 | コールサインで呼んでも良い。 きちんと伝えられたら褒めてあげましょう。 |
| 応答者 | 体験運用 | マツオカさん ですね。しっかり聞き取れました。 マツオカさんは野球がお好きのようですが、どちらの 野球チームで活躍されていますか？ どうぞ。 | 名前で呼び合い会話のキャッチボールをします。会話を 盛り上げながら、一問一答でマイクを回す。無線用語や コールサインは極力省く。 |
| 体験者 | 体験運用 | 小学校野球チームです。どうぞ | 「どうぞ」でマイクを回します。 |
| 応答者 | 体験運用 | ポジションはどこですか？どうぞ | |
| 体験者 | 体験運用 | ピッチャーです。どうぞ | |
| 応答者 | 体験運用 | すごいね～！ どんな球を投げますか？どうぞ | 褒めて、返事から会話を広げます。 |
| | | ～適当に会話がつづく～ | 時間で切らないようにする。 |
| 体験者 | 体験運用 | 内山さん ありがとうございます。どうぞ。 | |
| 応答者 | 体験運用 | マツオカさん 楽しい交信ありがとう。さようなら。 | 体験者を褒めて終わります。 |
| コントロール オペレータ | 終話 | JH1××× 〇〇市 内山さん。こちらは JA1〇〇〇 ××市 白木です。 体験運用を終了します。ありがとうございました。 | 「終話」とはその相手局との通話を終了すること。 明瞭に「体験運用を終了します。」 |
| 応答者 | 通常交信 | JA1〇〇〇こちらは JH1×××です。 ありがとうございます。73。 | つづいて体験者がいる場合は、「連絡設定」から再び始 めます。 |

・体験者が自然な言葉で楽しめるように適宜変更してください、